

国保助成事業に伴う長期運動継続の医療経済学的考察

【はじめに】

宗像市国保年金課は、国保対象者の住民検診において血圧又は血清脂質が正常域を越え、運動による改善が見込まれそうな方にウエルネスクラブ年会費の一部を助成する事業を行っている。これは宗像ユリックス・アクアドームの会員制クラブであるウエルネスクラブに入会していただき、他のクラブ会員と同様の運動を継続してもらうことによって、医療費増加の抑制を目指した事業である。拠出される助成金は、1人年間3万円、原則2年間継続で終了とし、計6万円である。健康づくり事業として、その対象者の中で入会されなかった方と入会された方との比較において効果評価を行った。

【方法】

1. 対象者

- (1) 国保助成対象者群(以下対象者群):住民検診において、収縮期血圧 140~159mmHg または拡張期血圧 90~94mmHg、総コレステロール 241~275mg/dl かつ中性脂肪 200~299mg/dl、いずれかの年齢 40 歳以上でウエルネスクラブに入会していただいた方。2年間継続者も途中退会者も合わせて対象者とした。
- (2) コントロール群:国保助成事業説明会の案内を郵送し、入会しなかった人々たちである。その中から、対象者の年齢と性別でマッチングさせた人をコントロール群とした。
- (3) 集計:素データ(同一月に2回以上発生することもあるため)を月ごとに合計し、通院による日数と医療費を個人ごとの年間合計とした。
- (4) 期間:助成開始期間が異なるため、国保助成対象期間のスタート月を合わせ、2年前、前年、対象1年目、対象2年目の4年間を解析期間とした。

【結果】

1. 年齢比較

対象者群:43名、66.9±4.1歳(男性15名、女性28名・2年間継続者22名、途中退会者21名)コントロール群:487名(男性183名、女性304名)67.6±3.9歳であった。統計的な有意差はなかった。(P=.2887)。

2. 通院日数

図1に年間通院日数の平均値の変化を示した。各1年間ごとの群間比較(マン・ホイットニーのU検定)では、2年前、前年、対象1年目と有意な差(P<0.01)が認められたが、対象2年目では差が認められなかった。年間通院日数の平均値は、コントロール群で年々増加していた(19±34日から34±48日)。図2にコントロール群と対象者群の前の年から増加日数を示した。コントロール群は毎年増加していた。対象者群は対象開始期間から減少していた。対象者群の増加日数は、対象1年目から減少し、対象2年目では対象前年に比べて平均年間9日間減少していた。対象期間前では、対象者群の方がコントロール群に比べて12日多かったが、対象2年目では対象者群の方が15日少なくなっていた。

3. 通院日数と医療費

年間通院日数と年間医療費の関係は、530名6年間のデータで正の相関関係(N=3,132 y = 3,268x + 41,088 R² = 0.693)が見られた。

4. 医療費の増加額

年間医療費は、コントロール群で年々増加していた(2年前85,942±136,263円から対象2年目150,839±182,346円、P<0.01)。対象者群は変化がなかった(2年前137,057±164,400円から対象2年目163,561±155,977円、P=0.266)。対象者群の平均値は年々減少し、対象2年目では対象1年目に比べ37,857円減額していた。コントロール群と対象者群の増加額の差額をみると、対象期間前では、対象者群の方が多かったが、対象2年目では、その差が65,499円と助成金額2年間の60,000円を上回った。

【考察】

対象者群のウエルネスクラブ入会前はコントロール群に比べて、平均年間通院日数も平均年間医療費も多かった。自ら何らかの改善のために努力しようという意識が入会された方にはあったと思われる。本人から日々のトレーニング時に測定している血圧値の変化情報等を主治医に伝えるなども行っていただいた。

医療費については、その診療内容まで把握できていないため、風邪等の疾患で通院した日や金額も含まれている。そのためウエルネスクラブ入会による運動の直接的な効果と考えることは早急すぎるが、結果として日数・金額ともに増加傾向の抑制に効果があったと評価できるとと思われる。

【課題】

- (1) 助成対象条件である血圧、血清脂質に関する通院日数と医療費金額のみで比較する。
- (2) 助成期間終了後会員を継続していただいている方の動向を確認し事業の評価を行う。

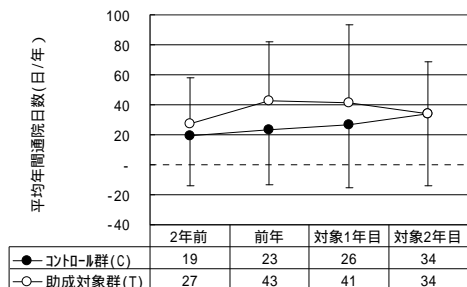


図1 平均年間通院日数の比較

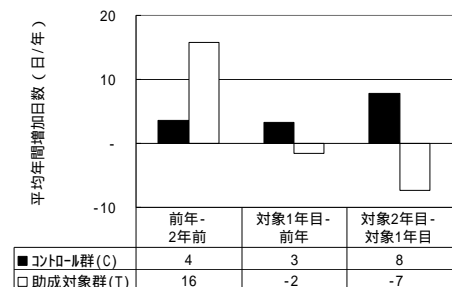


図2 増加日数(前年と)の比較